

## 大日岳/荒島岳山行報告

【日程】 2016年3月12日～13日

【エリア】 大日岳 荒島岳

【形態】 冬季山行

【メンバー】 K岡、I田、S本、Y尾、U屋、I田、M本、I藤、N川、Y村、O田

【報告者】 O田（新）

【ルートタイム】

3/12：ダイナーランドスキー場集合（9：00）～リフト上（9：50）

登山開始（10：10）～大日岳（11：35/12：10）～鎌ヶ峰（13：18）～水後山（14：00）

桧峠ウイングヒルスキー場（15：00）～檜山荘（15：30）

行動時間：4時間15分

3/13：檜山荘発（5：30）～勝原駐車場登山開始（7：00）～リフト跡（8：00）～

白山ベンチ（9：00）～荒島岳（11：20/11：50）～勝原駐車場（14：40）

行動時間：7時間10分

43「山と高原地図」より、白山の手前に「荒島岳」がいつも気になっていましたが、なかなか機会に恵まれなかった、今回 大日岳・荒島岳山行に参加させてもらいやっと念願がかないました。

### 【1日目（12日）】

テレビのサンダーバードにできそうなI田さんのインテリジェントな車にU本さんと3人、前日移動で深夜ダイナーランドスキー場に到着、すぐに仮眠。この時期花粉症に悩まされている小生にとって雪山ということで安心していましたが、朝起きてみると茶色になった杉林に囲まれていることが判明し、ここから苦悩の花粉症登山が始まる。

9時ごろ当日移動のメンバーとリフト前に集合、全員そろって見るからにやる気満々の顔色だ。早速、4人掛けのリフトに乗り込み登山開始地点へ、

（リフトに小学1・2年生ぐらいのお嬢ちゃんと一緒にりましたが会話はできず、到着するなり軽やかにスキーで滑っていきました）

さあ～これから大日岳に向けて登山開始、アイゼンも装着することなく適度な湿り気の雪質で心地よい滑りだした。そうこうしているうちに落葉したブナ林のなかへ、気を付けて雪原を見ていると1cmぐらいのブナの実が落ちており、その周りだけきれいに雪が溶けて円形ができています。ちなみに氷河期のブナは四国・紀伊半島南端までおいやられかろうじて生き残ったものが、盛り返して現在のブナ林になっているようだ。何気なく眺めているブナに自然の畏怖を感じずにはおられません。

尾根に出たとたんに快晴で風もなくほとんど雲はみられません、これもリーダーの仁徳かと思わずにおられません。



11時半ごろ大日岳山頂に到着。

御嶽山～三の峰～別山～白山～乗鞍岳～伊吹山 暫し雄大な景色に見とれながら昼食を頂いたところでリーダーの K 岡さんからせっかくの恵まれた機会なので水後山経由で直接桧山荘への提案があり、

運転役の I 田さん S 本さん I 田さん I 藤さん以外 7 人が、アイゼンを装着して鎌ヶ峰・水越山～桧峠ウイングヒルスキー場へ行くことになった。途中急下降の 2 か所では U さんが即座にロープ代わりにシュリング 2 本で安全

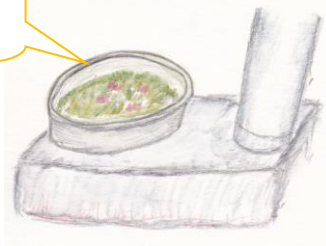
確保された。また、45 度の急斜面のトラバースでは日の光

で銀色のシルエット状態のところ、サクサクとアイゼンが食い込む音を楽しみながら歩行することが来た。下山後、さっそく桧山荘へ。

早速、ストーブに火をかけ暖を取り、よもやま話に盛り上がる。



ストーブにすき焼き  
+うどん



## 【2日目 (13日)】

4時半起床、早々に朝食をいただき、勝原駐車場に移動。

こちらは、100名山ということもあり駐車場はほぼいっぱい (26台ぐらい) の状態、もとはスキー場の

ようですが、標高が 350m ぐらいのこともあり雪もなく春模様の感さえ漂

早々、登山開始 いきなり勾配 30 度の直線舗装道の登りから始まり、次に不均衡な石ころが転がっている斜面が続くことになる。リフト跡を過ぎて白山ベンチへ、御前峰を眺めながらのお茶は快くのどをうるおす。

歩行 3 時間も過ぎたところあたりからやわらかい雪質から、踏み固められた不均衡な階段状となり、リーダーの指示でアイゼンとピッケルを使うことに。

余裕ができたところで周囲をゆっくり眺めたところ、大台ヶ原のブナ林を思わせるようなブナの樹林帯の中に納まっていることに静かな感動を覚えた。幸い鹿の糞は見ることなく、茶色のハウセンカのような実は散在しており、新緑の若葉が一斉に芽生える 5 月ごろが楽しみなる。

尾根に辿りついたところで視野が一挙に広がり、疲れた足ものが急に軽くなるのとともにお腹がすいてきて軽く行動食を取る。

2 か所岩場の取つきを乗り越え、一気に山頂に登りつめる。

100 名山だけあって、360 度の展望はさすがです、祠の前で昼食後、「荒島岳」の標識の前で、常連でこられている地元の登山家に写真撮影をお願いする。

この辺りから微風が流れ寒さを感じるようになり早々下山。登り始めた時に茶色の粘土質に霜柱が気になっていたが、予想通り霜柱は解けて泥沼状の斜面を下ることに、泥だらけの登山靴を気にしながらも全員無事に下山することができた。

